

ものとなるのである。

労働運動は労働者の自覚を伴ふたものでなければならぬ。労働運動は社会運動であり人類解放運動であつて労働者階級の階級的私利を計るものではないが、やはり中心となつて働くものは労働者である。労働者が眞に自覚し内部生命の流露として労働運動に従事してこそ眞に意義ある運動となるのである。

最後に労働者諸君の注意を乞はんと欲するは労働運動が區々たる資本家を相手取るものではなく一般社会を対象とするものなることである。労働者は生産者である。生産者たる労働者が今日の如き低級の生活をするのは其根源に於ては一般社会の消費者が生産者に對する恩義を知らざるか故である。一般消費者が生産者の功勞と名譽と權利とを認むるに至れば資本家が今日の待遇を改むるは火を見るよりも明かである。

## 二 日本労働者の難關

日本の労働者は社会的にも経済的にも政治的にも甚だ低い地位におかれてゐるのであつて、そのために労働運動が甚だ發達を妨げられてゐるのである。

外國の労働者は日本の労働者と比較にならぬほど向上した生活をして居るのである。然しそれは彼等が血を流して得た結果である。恐らく日本の社会は日本の労働者に向つて「血を流して自己の要求を貫け」といふが如き冷酷の心を持つてゐるのであるまい。吾人は一日も早く社会が労働者に對する不當の取扱を止めることが要求するのであるが、労働者自身亦覺醒して自己要求の貫徹に努力することを切に祈るものである。

日本の労働者の労働運動上の障礙は何々であらうか。その重なるものは五つある。